

【議案 4】

ESD-J 2020年度 事業計画（案）

< 2020年4月1日～2021年3月31日 >

I. 2020年度の活動方針

2019年12月の国連総会においてESDグローバルアクションプログラム（GAP）の後継となる新たなESD推進の国際枠組みである「持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて（ESD for 2030）」が採択された。我が国は、ESD国内実施計画のレビューを行うとともに、「ESD for 2030」を踏まえた新たな国内実施計画の策定に向けた準備を進めた。「ESD for 2030」においては、ESDはSDGs推進に寄与することが明確にされるとともにSDGsの目標4.7にとどまることなく、全ての目標を達成していくためにESDが必須であることも明記されている。すなわち、ESDがこれまで以上に注目され、取り組みを推進させるための環境整備がなされた。これを好機とし、ESD-Jは、ESD活動支援センター（全国・地方）、地域ESD拠点と連携しつつ、ESD推進ネットワークの一層の推進に向けた活動を展開する。

また、ESD-Jの会員・ネットワークを生かし、ESDを巡る国際的、国内的情報を会員と広く共有することにより、SDGs・ESD推進に向けたさらなる環境整備に貢献する。これらの活動は、第五次環境基本計画、第3期教育振興基本計画、新たなESD国内計画などの政府による取り組みや自治体・企業・学校などでのSDGs推進の取り組みとも連携しながら進める。

しかし新型コロナウイルスがいまだ未収束であり、従来のような活動を展開することは困難であり、オンラインなどを駆使した活動に当面限定される可能性がある。また、新型コロナウイルスが顕在化させた現代社会の持続不可能性の諸問題はまさにESDが解決にすべき課題であることから、地方分散型社会の追及や格差社会の是正など、ESDを通じたポストコロナ社会のビジョンや教育の在り方などについても積極的に発信していく。

【重点課題】

- ESD推進ネットワークの更なる発展に向けた支援
 - ◆ 2030年に向けた新たな枠組み構築への政策提言
 - ◆ 地域におけるSDGs・ESDの推進
- 既存のSDGs・ESD推進団体との連携強化
- 自治体との連携推進
- 民間企業との協働の推進
- アジアを中心とする国際協力

2019年度は新たな事務局長を迎えることができ、これらの事業に前向きに取り組む体制を整備することができた。2020年度はESD-Jの原点に立ち返り、ESD-Jならではの事業を推進し、ESD-Jと会員との連携・協働強化を最重要課題と認識し、取り組んでいく。

II. ESD推進事業

1. ESD推進ネットワークの更なる発展に向けた支援

（1）2030年に向けた新たな枠組み構築への政策提言

【議案 4】

2019年度にESD-Jは、理事、会員、元理事を通して国が行うGAPに関するESD国内実施計画のレビューで拾えないきめ細かな現場の声（民意）を拾い、レビュープロセスに反映させるための政策提言に取り組んだ。2020年度には、その内容を拡充し、ESD for 2030を踏まえた新国内実施計画に向けた政策提言を行う。

2. 市民が主体となったESD事業

（1）羅臼町における持続可能な地域社会づくりに向けた人材育成事業（仮称）

過疎高齢化が進む日本の地域社会の典型として、漁業が低迷し人口の減少に悩む北海道目梨郡羅臼町を取り上げ、地域に愛着を持ちSDGs達成の担い手を育てる教育のモデルを開発し、全国に発信することを目指す。昨年度「ユネスコ活動費補助金 SDGs 達成の担い手育成（ESD）推進事業」として実施した『知床学』を通じた地域資源の発掘と地域振興の担い手づくり事業を引き継ぎ、地域における持続可能な社会づくりに向けた官民協働の協議会づくりとその協議会を活用した人材育成を進める。昨年度、羅臼町全体としてSDGsに取り組むことが方針として決まったことを受け、ESD-Jは引き続き、地元企業や教育関係者等から成る協議会による羅臼の自然環境や歴史、文化と現在の課題の検討を支援するとともに、幼小中高を貫く教育課程「知床学」を協議会と連携して開発・改善し、羅臼を愛し、羅臼の発展に貢献できるような若い世代の育成を支援する。

（2）岡山ESDコーディネーター研修の企画・運営

岡山地域「持続可能な開発のための教育」推進協議会（略称、岡山ESD推進協議会）が主催する「人材育成」の一環としての「ESDコーディネーター研修」の企画・運営事業を受託、実施する（委託事務局は岡山市市民協働局市民協働部SDGs・ESD推進課）。本業務は、中国地方担当理事である池田満之が現場実務を担当する。本業務は、ESDの推進のため、「岡山ESDプロジェクト」の重点取組分野に掲げている「人材育成」の一環として、「ESDコーディネーター研修」を企画・実施し、ESDコーディネーターとして必要な考え方やスキルを身につけた人材を育成するものである。実施にあたっては、岡山地域の人材を活用することで、研修のノウハウを岡山地域に蓄積できるようにする。

主な事業計画内容は、以下の通り。

■第1回集合研修…2020年11月6日（金）9時30分～17時

- ・ESD、SDGsの視点を学ぶための講義やワーク
- ・テーマに沿った課題を抽出し、協働と参画を促しながら課題達成のための事業の提案づくりをするスキルを身につける講義やワーク

■第2回集合研修…2020年11月27日（金）9時30分～17時

- ・企画書、学習プログラムの作成の仕方

■個別相談会…2020年12月4日（金）10時～17時

- ・企画書案、学習プログラム案についての個別相談

■第3回集合研修…2021年1月29日（金）9時30分～17時

- ・企画書、学習プログラムの発表
- ・終了認定証の授与

（3）未来につなぐふるさと基金事業

2020～2021年度の事業としてパブリックリソース財団、キヤノンマーケティングジャパン株式会社、公益財団法人日本自然保護協会が協働で実施する「未来につなぐふるさと基金」の採択が決まり、当団体と生物多様性に関する市民参加型プログラムを実施することとなった。

【議案 4】

今年度は、2020年8月～12月に親子連れの参加者を対象とした身近な食と生物多様性にまつわるテーマのイベントを3-4回予定している。下記を予定しているが、感染症拡大の影響で実施が2021年1月以降にずれ込む、あるいは中止となる可能性もある。

- ① 田んぼの生き物調査（関東圏にて実施）：生き物の観察会の実施、キヤノンマーケティングジャパン主催の田んぼの生き物等の写真撮影会を実施する。
- ② 「ファミリーレストランと食の安全」をテーマにびっくりドンキーの省農薬米、田んぼの生き物調査、草地農業等の取り組みを紹介していただき、外食における食の安全と、生物多様性の関係について考える機会を創出する。
- ③ 「安くて甘いバナナ、その背景にある生産現場の実態とは」身近な食品・海外から安価に輸入されているバナナにまつわるストーリーを紐解く
- ④ 上記の取り組みを展示・紹介し、生物多様性について考えてもらう機会を創出する。

なお、本事業で受けられる非資金的支援として、ファンドレイジング研修を理事・事務局員が受講し、ファンドレイジング戦略（資金源のバリエーションやバランス、調達目標や方法）の作成等を支援していただく予定である。

（4）イベントの主催、実施

上述の未来につながるさと基金事業で実施する②お米と③バナナの2回のワークショップは、ESD Caféとして実施する予定である。これらのイベントを通じて、会員、一般の方々にESD-Jの活動、並びにESDに関連する様々な活動に関心を高めてもらい、行動変容の機会を積極的に創造する。

3. 国際事業

（1）アジアのESDに関するNGOネットワーク（Asian NGO Network on ESD: ANNE）

休止していたANNE活動の再開を図る。具体的には、以下の活動を行う。

- ・日本環境教育学会、日本ESD学会等と連携しつつ、ANNEを含むSDGs・ESD関係の国際活動を推進するための国内体制の整備・充実を図る。
- ・アジア各国のANNEフォーカルポイントと連絡、意見交換し、COVID19が各国のSDGs・ESDに及ぼす影響に関する情報を共有する。
- ・SDGs・ESD国際プロジェクトを検討する。

（2）ESDに関する国際情報の発信

- ・ESD-Jのウェブサイトを通じ、また、セミナー、勉強会、シンポジウム等の主催、共催等を通じ、最新のESD関連国際情報の国内への周知を行うとともに、国内におけるESD活動の国外への発信を図る。

4. その他事業

（1）NPO活動のESD評価事業

2019年度に開始したNPO法人えひめグローバルネットワーク（以下、EGNと記載）との協働事業「モザンビークESD活動記録のまとめ・評価協働事業」の「ESD評価指標の選定と、評価報告書の作成」業務を実施し、2019年度に作成した「EGNのモザンビーク支援活動、ESD実践に関する記録、資料のまとめ」と併せて報告書として提出する。本事業を元に、EGN以外のNPO・地方自治体・企業等の活動に対しても、要望に応じてESDの視点を用いた多角的な評価、分析を実施

【議案 4】

することで、ESD的な活動の広まり・深まりや課題等を可視化し、ESD活動を継続・進化させていくための道筋を提案することを目指す。

(2) グリーンチャレンジデー2020企画運営事業

同イベントが開催され、企画提案を環境省教育推進室のから求められた場合、提示されたテーマに準じた企画を本年度も提案する予定である。

(3) HESDフォーラム推進事業

高等教育におけるESDフォーラム（HESDフォーラム）は、ESDに取り組む高等教育機関が、ESD実践等に関する様々な情報の交換を行い、ESDの質の向上を図ることを目的として2007年に設立された。会長を代表理事の阿部が務め、2007年の第1回からこれまでに13回の大会を開催してきたが、定まった事務局がないため、近年活動が停滞している。ESDにおける高等教育機関が果たす役割の重要性、ESD-JとESD関係機関との連携強化の必要性を鑑み、HESDフォーラムの事務局をESD-Jが務める方向でHESDフォーラムとの調整を行う。

(4) 新規事業のための調査・準備

①既存のSDGs・ESD推進団体との連携強化

日本環境教育フォーラム（JEEF）、日本エコツーリズムセンター、開発教育協会（DEAR）、日本ESD学会、日本環境教育学会、日本ユネスコ協会連盟、ユネスコアジア文化センター（ACCU）、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク、SDGs市民社会ネットワーク等の既存のSDGs・ESD推進団体とのコミュニケーションを図り、連携を強化する方策を検討する。

②自治体のSDGs・ESD担当部局との連携強化

全国SDGs・ESD自治体会議との連携強化を中心に、自治体のSDGs・ESD担当部局との連携・協働の推進を図る。

③民間企業との連携促進

民間企業との連携を促進するため、グローバル・コンパクト・ジャパンとの情報交換を進めるとともに、SDGs・ESDに関連する活動を展開する個別企業との連携・協働の可能性を模索する。

(5) 教材開発プロジェクト

①日能研教材開発プロジェクト

株式会社日能研からESD-J、公益社団法人日本環境教育フォーラム（JEEF）、NPO 法人日本エコツーリズムセンターに対して、日能研に通う子どもたちに「答えが定まらない（正解がない）問い」を投げかけるための素案作成を依頼された。日能研は、毎年ゴールデンウィークに3日間の合宿型体験イベントを開催しているが、今年は新型コロナウイルスの影響で開催を見送った。しかし、代わりに「答えが定まらない（正解がない）問い」を投げかけ、生徒間で議論し合うセッションをオンラインで開催するということとなり、各団体の特徴を活かした問いの素案を提案してほしいとの依頼があり、それに協力する。

②社会問題を“解決できる人”を育てる教材開発プロジェクト

2019年12月～2020年1月にパブリックリソース財団によるマッチングファンド「Eチャレンジ」が開催され、ESD-Jは、「社会問題を“解決できる人”を育てる教材開発」プロジェクトへの寄附を募集した。寄附は無事に目標額を達成することが出来、この寄附を活用して今年度は教材開発を行う予定である。本プロジェクトは、ESDカフェTokyoやグリーンチャレンジデーの経験を踏まえ、複雑な国際・環境社会問題であっても、絵と単純化した物語を用いて、子供の集中力が持続する短時間でストーリーとして伝えることにより、子供達にも十分に高い理解と問題意識が共

【議案 4】

有されるという実証に基づいている。教材としては、紙芝居を予定しており、デジタル化して、ESD-Jのウェブサイト上にアーカイブ化することを構想している。

③ESD教材のオンラインアーカイブの作成

NPOや地方自治体、省庁、大学、小中高校等の教育機関が作成している優れたオンライン教材をウェブサイト上にまとめ、会員を始め、ESDの学習に興味を持った方々が活用しやすくする。

(6) オンラインセミナー等の開催

新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、人が集まるイベントやセミナーの開催は困難であるが、これを契機に理事の専門性を活かした*ウェビナーを用いたオンラインセミナーを定期的で開催する等、ITを活用した新しい取り組み、会員との交流、ESDの推進を図る活動を検討する。
注) ウェビナーとは、Web上で行う動画セミナーのこと。

III. 運営体制、及び組織基盤強化

1. ESD-J運営体制 (案)

(1) 役員 (理事14名、監事2名、顧問4名)

役 職	氏 名
代表理事	阿部治、重政子
副代表理事	池田満之
理事	小金澤孝昭、下村委津子、新海洋子、鈴木克徳、大島順子、鳥屋尾健 宇賀神幸恵、小玉敏也、三宅博之、福井光彦、中田和彦
監事	浅見哲、吉岡睦子
顧問	池田香代子、岡島成行、廣野良吉、高木幹夫

○役員役割表

役 割	氏 名
組織運営理事	阿部治、重政子、池田満之、鈴木克徳、小金澤孝昭
総務・労務・経理担当理事	重政子、池田満之
広報担当理事	下村委津子、福井光彦
羅臼事業担当理事	中田和彦、鈴木克徳、池田満之
ステークホルダー間の連携 担当理事	【学校】 小金澤孝昭、小玉敏也 【国際協力、開発分野】 鈴木克徳、三宅博之
地域担当理事	【北海道】 中田和彦【東北】 小金澤孝昭 【関東】 鳥屋尾健、小玉敏也【近畿】 下村委津子 【中国】 池田満之【四国】 宇賀神幸恵 【北陸・東海】 鈴木克徳、新海洋子 【九州・沖縄】 三宅博之、大島順子
監事	浅見哲、吉岡睦子
顧問	池田香代子、岡島成行、廣野良吉、高木幹夫

(2) 事務局

役 割	氏 名
-----	-----

【議案 4】

事務局長	横田美保
事務局スタッフ	牧野朝香、武田朋子、齋藤さおり、後藤奈穂美

(3) 組織運営理事

代表理事を助け、組織運営に係る案件を整理する役割を担う。また、組織運営理事会は、代表理事が指名する理事と事務局長から構成される。

2. 組織基盤強化

(1) 事務局活動の強化

- ・事務局員の1名の増員により、新規事業立案のための調査、助成金申請等の業務、国際事業等を強化する。また、事務局のより効率的な業務実施体制の整備を図る。
- ・感染症拡大予防のために在宅勤務の実施を余儀なくされているが、これを機にテレワークの制度、体制を整え、事務局以外の場所においても質の高い業務を行えるよう仕組みを構築する。

(2) 効果検証に基づく情報発信の強化

- ・会員の維持・増加に向けた取り組みを強化する。
- ・財政基盤の強化に向けた会費収入、寄付等の増加方策を検討するとともに、ウェブ強化のための助成金申請等の検討を進める。
- ・昨年度、GAPレビューに関するアンケートを実施した際に把握した会員のESD関連活動の課題やESD-Jに対するニーズを踏まえ、ESD-Jの活動に会員の声をより一層反映できるよう努める。
- ・2020年度も引き続き、SNSを活用した情報発信・広報ツールの強化、ニュースレターの定期発行等による会員等への情報発信を強化する。とりわけ新型コロナウイルスがまん延している状況下において、インターネットを活用した取り組みは、非常に重要と認識している。
- ・引き続きGoogle AnalyticsとGoogle Search ConsoleなどのWEB解析ソフトを活用して、ウェブサイトの来訪者の意向や傾向を分析し、ESD-Jの認知向上のための効率化を図る。

IV. 会議等予定

<総会> 通常総会	2020年6月13日（土）	電磁的方法
<理事会> 第1回理事会 第2回理事会 第3回理事会 第4回理事会	2020年4月4日（土） 2020年5月23日（土） 2020年10月10日（土） 2021年2月6日（土）	原則、電磁的方法で開催する
<理事懇談会> 第1回新旧理事懇談会 第2回理事懇談会 第3回理事懇談会	2020年6月13日（土） 2020年8月16日（土） 2020年12月12日（土）	原則、電磁的方法で開催する

以上